



高瀬中だより

校長通信 No. 1
2021.4.20

「反撃開始 ～こんな所じゃ止まらない」 校長 千秋 久宣

「反撃開始 ～こんな所じゃ止まらない～」

一見、過激な感じも受けるし、ユニークでもあるこのフレーズは、現3年生の生徒が案を出した今年度の高瀬中学校の生徒会スローガンであります。例年、生徒会スローガンというものは、新年度が始まって少し経ってから発表されるのが、どの学校でもありがちなことだと思うのですが、今年度、高瀬中学校では、1年生の入学とほぼ同時にこのスローガンが、生徒会役員により全校生徒の前で発表され、その意味が説明されました。そのタイミングの早さからも意欲が感じられます。今のご時世ですから、「反撃」とはもちろん、新型コロナウイルスに対してのものであり、何事に対しても、このまま「待ち」の姿勢ではいけないのではないかという、生徒たちの思いが詰まったものだと私は感じています。何とかして、この気持ちに応えたいというのが本音であります。

さて、昨年度1年間は本当に苦しい1年でした。授業にしても、部活動にしても、生徒会活動や学校行事等、本来、生徒のみなさんは体験から多くのことが学べるはずが、それがかなわなかったわけです。次から次へと出てくる言葉は「中止」「簡素化」「延期」・・・といった消極的な言葉が多く、行事の度に「またか・・・」という声が聞こえてきそうでした。

しかし、高瀬中学校の生徒は「常に前向き」でした。行事の時は、少しでも実施できたことを周囲の人々に感謝し、先輩は後輩に情熱や伝統をつなぐという姿勢を見せてくれました。卒業した3年生が「考動」という学年目標を掲げて、後輩の手本となったり、道筋をつけたりしていった姿勢は、今年度の在校生に引き継がれると信じています。

新型コロナウイルスは、まだまだ終息に至っていません。昨年度は確かに負の部分が多かったかもしれません。しかし、一方で、知恵や工夫により前進できた部分もありました。授業や行事でオンラインやリモートを活用した実践が可能であることも証明できました。「合唱コンクール」、「生徒会役員選挙の演説会」、「人権集会」、「卒業式」そして、先日の「入学式」と、一同が集まることはできませんでしたが、こんなにも多くの行事でリモートを活用できたのは大きな収穫でした。年度の後半には、全校集会もできるようになりました。授業でも、1人1台のタブレット端末の貸与（GIGAスクール構想）により、ICTを活用したり、自分で学習を進めたりすることも容易にできるようになりました。物だけでなく、人と人の関わり方や気配り等がコロナ禍では大切なことも学ぶことができました。困難な時こそ、人間は知恵を発揮し、工夫して物事を進めることができることも体験できました。

今、学校では、昨年度の「成果と課題」を分析し、昨年度の高瀬中学校に負けない学校にしようと考えています。何ができたかだけを追い求めるのではなく、それによって何が身についたか、何ができるようになったか等、生徒たちの姿で評価いただけるよう私たち職員一同、頑張ってまいりたいと思います。

今後とも、保護者の皆様、地域の皆様のご支援やご協力をよろしくお願い申し上げます。